

# 商工会議所LOBO(早期景気観測)

— 2010年8月調査結果 —

 日本商工会議所  
The Japan Chamber of Commerce and Industry  
2010年8月31日

## 業況DIはわずかに改善も、先行きへの警戒感が強まる

### <結果のポイント>

- ◇8月の全産業合計の業況DIは▲37.7(前月比+2.0ポイント)と、マイナス幅が2カ月連続で縮小した。業況は、持ち直しの動きがみられるが、主要因は猛暑特需によるものであり、これを除くとほぼ横ばい。6月以降、改善の勢いが鈍化している。景気回復の自律性は依然として乏しく、競争激化に伴う低価格での受注や、消費者の低価格志向を意識した値下げ競争により、収益確保は難しい状況が続いている。
- ◇業種別では、卸売業はマイナス幅が若干拡大したものの、製造業はほぼ横ばい、猛暑の影響で飲料やエアコンなど夏物商品の売上が増加した小売業、サービス業はマイナス幅が縮小した。一方、公共・民間工事ともに受注の減少が続いている建設業は、低水準で推移している。
- ◇項目別では、売上DIが、猛暑による好影響で2008年3月以来の水準を記録するなど、すべての項目でマイナス幅は縮小した。
- ◇先行きについては、▲37.2(前月比▲2.5ポイント)と、8カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。公共工事の減少、低価格での受注競争の激化、経済対策(エコカー補助金)の期限切れによる自動車販売の落ち込みの見通しに加え、製造業を中心に、急激な円高の悪影響を懸念する声が多く出ており、先行きへの警戒感が強まっている。

### ----- 調査要領 -----

○調査期間 2010年8月17日～23日

○調査対象 全国の408商工会議所が2661業種組合などにヒアリング

(内訳) 建設業:391 製造業:628 卸売業:243 小売業:745 サービス業:654

○調査項目 今月の業況・売上・採算などについての状況および業界として直面する問題等

#### ※DI値(景況判断指数)について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景況感の相対的な広がりの意味する。

$$DI = (\text{増加・好転などの回答割合}) - (\text{減少・悪化などの回答割合})$$

業況・採算:(好転) - (悪化)      売上:(増加) - (減少)

【本件照会先】 産業政策第一部 TEL:03-3283-7839 E-Mail:sangyo1@jcci.or.jp  
<http://www.jcci.or.jp/lobo/lobo.html>

## ＜産業別の特徴的な動き＞

産業別にみると、卸売業は業況D Iのマイナス幅が拡大したものの、製造業はほぼ横ばい、その他の3業種はマイナス幅が縮小した。ただし、公共・民間工事ともに受注の減少が続いている建設業は、低水準で推移している。

「原材料価格の上昇・高止まりに伴う企業収益への影響」については、「今後悪影響が及びそうな見通し」との声が5割近くに達しており、「悪影響が出ている」（約2割）と合わせて約7割の企業に影響が生じている。

各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

DI値(前月比) ↑ マイナス幅縮小 ↓ マイナス幅拡大

### 【建設業】

業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
↑	↑	↓	↑	⇔	↑

- ・「公共工事の受注競争が激しく低価格入札が多いため、収益状況は依然として厳しい」（一般土木建築工事業）
- ・「公共・民間工事とも受注が低調で、景気回復の実感は程遠い」（土木工事業）
- ・「原材料であるコンクリートの仕入価格が高騰し、採算が悪化」（舗装工事業）

### 【製造業】

業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
⇔	↓	↑	↑	↑	⇔

- ・「4月以降続いていた改善の勢いが止まり、現在の業況を維持できるか先行きに不安を感じる」（工業用プラスチック製品製造業）
- ・「建設機械関係の受注は急速に回復しているが、取引先からコスト削減の要求が強い」（一般産業用機械・装置製造業）
- ・「エコカー補助金の終了に伴う自動車生産・販売の落ち込みや円高の進行による輸出の減少を懸念」（その他の金属製品製造業）

### 【卸売業】

業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
↓	↓	↓	↑	⇔	↑

- ・「花の仕入価格の上昇に対し、小売店での販売価格への転嫁は難しく、採算が悪化」（農畜産・水産物卸売業）
- ・「建築資材の荷動きが悪く、売上の減少が続いている」（建築材料卸売業）
- ・「高速道路料金の無料化が運送時間の短縮や経費節減に寄与」（各種商品卸売業）

### 【小売業】

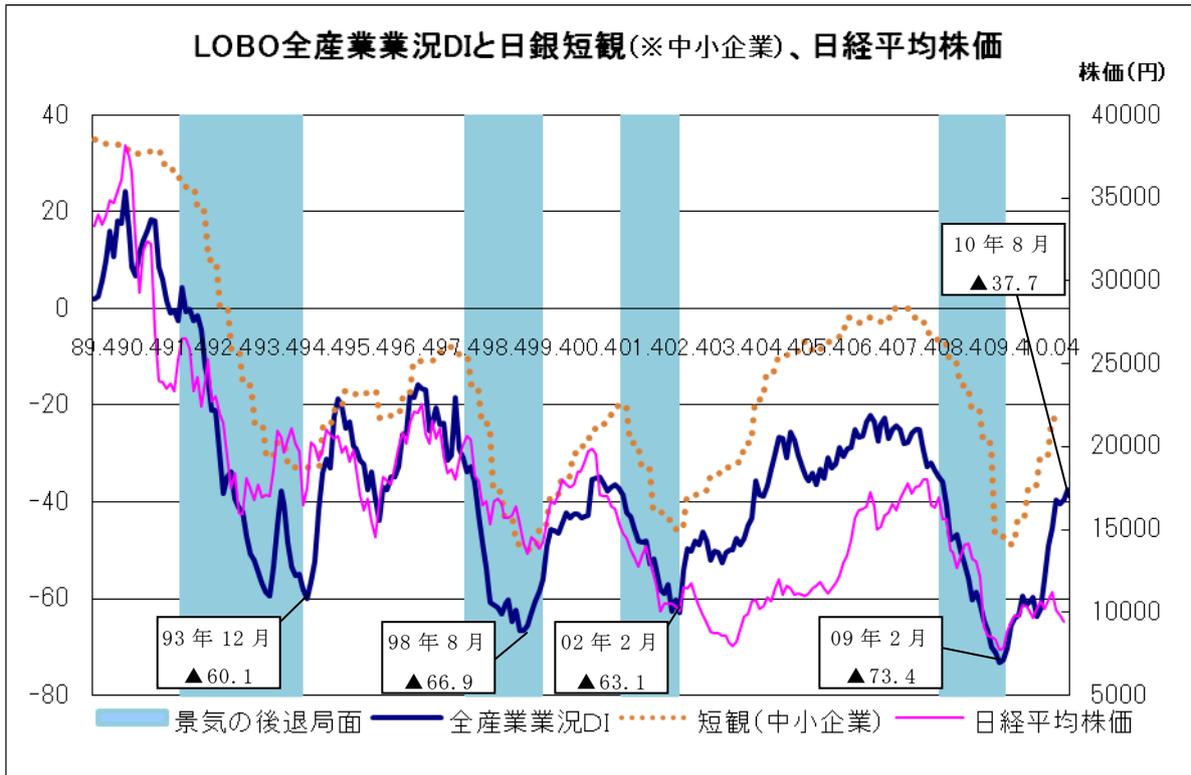
業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
↑	↑	↑	↓	⇔	⇔

- ・「7月に好転の兆しがみられた美術・宝飾・貴金属関係の売上が、8月に入って前年同月比10%程度のマイナスに転じた」（百貨店）
- ・「猛暑によるエアコンの買い替え需要が旺盛であったことから、梅雨明けからお盆過ぎまで好況が続いた」（その他の小売業）
- ・「消費者の低価格志向が強まっており、利幅の少ない安い商品ばかりに売上が偏っている」（その他の小売業）

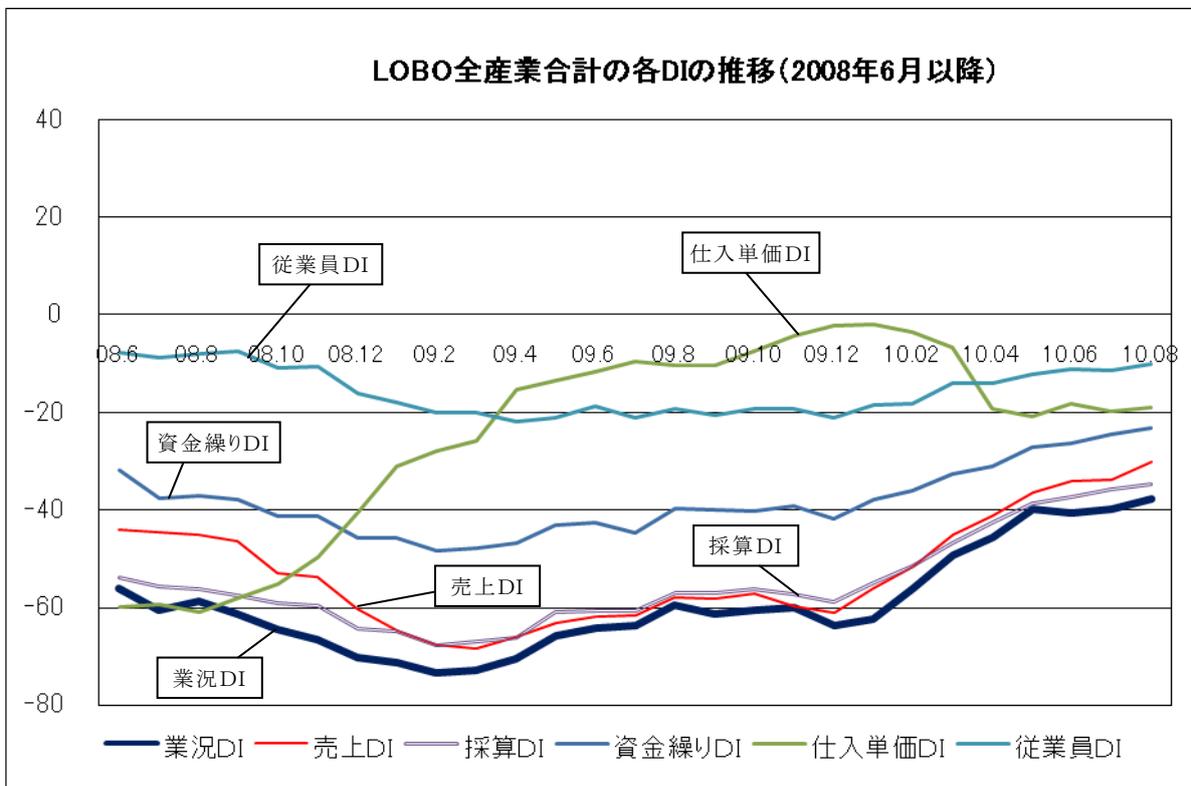
### 【サービス業】

業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
↑	↑	↑	↑	↑	↑

- ・「猛暑の影響で例年より客足が鈍り、売上が減少」（その他の一般飲食店）
- ・「お盆をはさんだ夏休みの国内旅行客は減少しているものの、中国からの観光客が増加」（旅館）
- ・「食材、包装容器等の仕入価格の上昇がひとまず収まっているものの、来店客数の減少に歯止めがかからず経営状況は厳しい」（喫茶店）



※短観 (中小企業)：資本金2千万円以上の企業が調査対象



### 【業況についての判断】

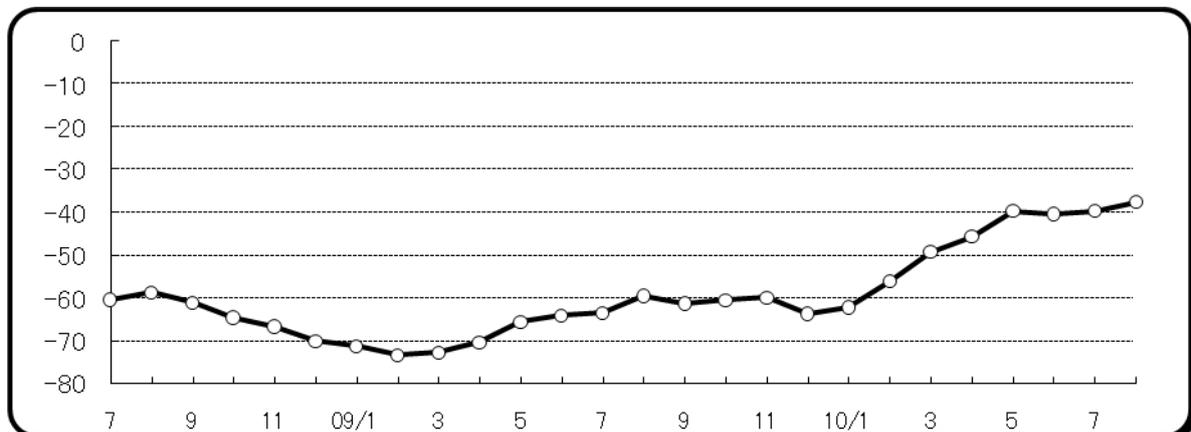
- 8月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は▲37.7（前月比+2.0ポイント）と、猛暑による一部商品の売上増加などの好影響もあり、2カ月連続でマイナス幅が縮小した。
- 産業別にみると、卸売業はマイナス幅が拡大したものの、製造業はほぼ横ばい、他の3業種はマイナス幅が縮小した。
- 向こう3カ月（9～11月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI（今月比ベース）は▲37.2と、前月（▲34.7）と比べ▲2.5ポイントとなり、8カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。
- 産業別に先行き見通しをみると、前月と比べ、卸売業はマイナス幅が縮小、小売業はほぼ横ばいとなったものの、他の3業種は拡大した。

### 業況DI(前年同月比)の推移

	10年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9～11月
全産業	▲49.3	▲45.7	▲39.7	▲40.5	▲39.7	▲37.7	▲37.2 (▲34.7/▲46.3)
建設	▲52.6	▲59.6	▲55.3	▲58.1	▲58.0	▲56.1	▲52.1 (▲49.6/▲46.9)
製造	▲35.6	▲30.6	▲25.4	▲25.1	▲20.6	▲20.0	▲31.9 (▲27.2/▲42.5)
卸売	▲50.0	▲48.5	▲34.6	▲37.0	▲33.3	▲35.4	▲24.8 (▲30.9/▲45.8)
小売	▲57.7	▲50.9	▲46.0	▲41.8	▲46.9	▲43.9	▲36.1 (▲37.0/▲50.2)
サービス	▲52.1	▲45.5	▲39.5	▲45.1	▲41.6	▲38.8	▲39.3 (▲31.7/▲45.4)

※「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しDI  
 ( ) 内左側(網かけ)は前月(7月)の先行き見通しDI  
 ( ) 内右側は昨年8月の先行き見通しDI

### 《業況DI(全産業・前年同月比)の推移》



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

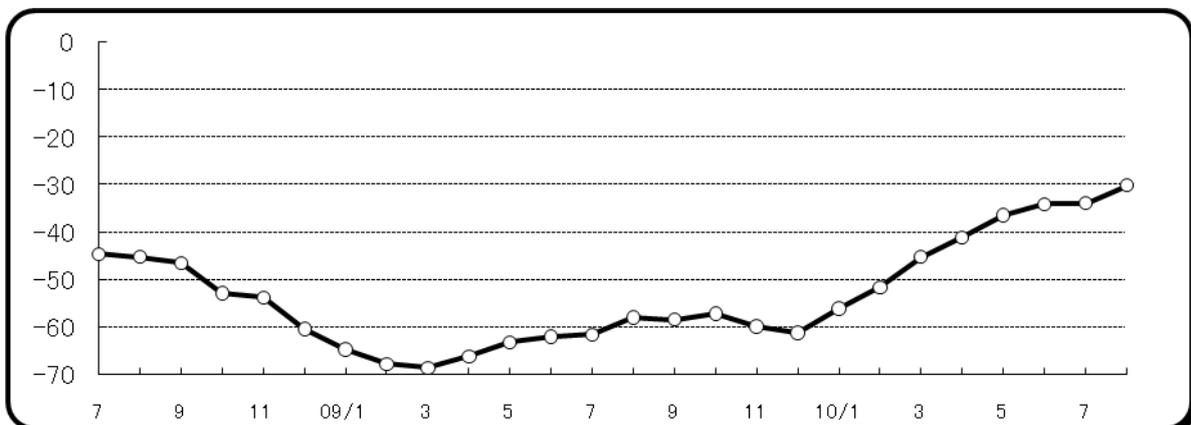
- 売上面では、全産業合計の売上D Iは▲30.2（前月比+3.7ポイント）と、8カ月連続でマイナス幅が縮小した。産業別にみると、製造業と卸売業はマイナス幅が拡大したものの、他の3業種はマイナス幅が縮小した。
- 向こう3カ月（9～11月）の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I（今月比ベース）は▲32.9と、前月（▲29.9）に比べ▲3.0ポイントとなり、2カ月連続でマイナス幅が拡大した。
- 産業別に先行き見通しをみると、前月と比べ、建設業でマイナス幅が縮小、小売業は横ばいとなったものの、他の3業種は拡大した。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	10年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9～11月
全産業	▲45.2	▲41.1	▲36.4	▲34.1	▲33.9	▲30.2	▲32.9 (▲29.9/▲41.2)
建設	▲44.7	▲59.5	▲51.1	▲47.7	▲51.3	▲47.7	▲36.9 (▲38.9/▲38.6)
製造	▲29.4	▲20.0	▲17.0	▲14.6	▲8.3	▲11.3	▲28.8 (▲20.3/▲33.2)
卸売	▲49.3	▲45.5	▲41.0	▲32.1	▲32.4	▲34.6	▲28.5 (▲25.0/▲28.5)
小売	▲56.4	▲48.9	▲46.9	▲40.5	▲45.4	▲35.4	▲36.5 (▲36.5/▲50.2)
サービス	▲47.6	▲40.4	▲33.2	▲38.8	▲36.2	▲31.7	▲32.3 (▲28.3/▲46.0)

※「先行き見通し」は当月に比べた向こう3カ月の先行き見通しD I  
 ( ) 内左側（網かけ）は前月（7月）の先行き見通しD I  
 ( ) 内右側は昨年8月の先行き見通しD I

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



### 【採算の状況についての判断】

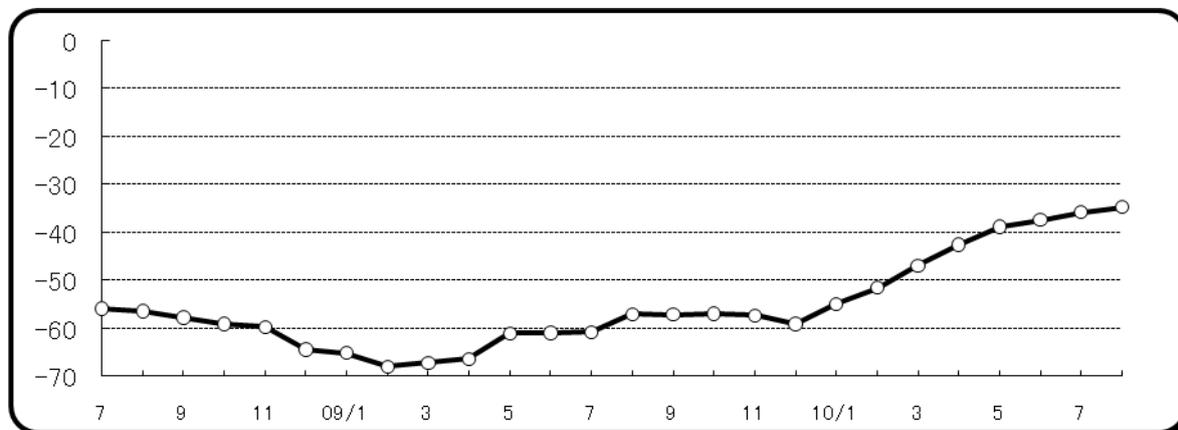
- 採算面では、全産業合計の採算D Iは▲34.8（前月比+1.0ポイント）と、8カ月連続でマイナス幅が縮小した。産業別にみても、建設業、卸売業はマイナス幅が拡大したものの、他の3業種は縮小した。
- 向こう3カ月（9～11月）の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I（今月比ベース）は▲33.7と、前月（▲32.2）と比べ▲1.5ポイントとなり、8カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。
- 産業別に先行き見通しをみると、前月と比べ、建設業、サービス業はほぼ横ばいとなったものの、他の3業種はマイナス幅が拡大した。

### 採算D I（前年同月比）の推移

	10年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9～11月
全産業	▲46.9	▲42.6	▲38.8	▲37.4	▲35.8	▲34.8	▲33.7 (▲32.2/▲44.1)
建設	▲51.6	▲57.7	▲52.3	▲52.1	▲51.3	▲53.0	▲45.3 (▲46.0/▲42.5)
製造	▲33.9	▲31.9	▲26.4	▲27.1	▲24.4	▲23.1	▲33.1 (▲30.4/▲42.2)
卸売	▲44.0	▲35.1	▲34.3	▲35.8	▲26.5	▲32.3	▲23.1 (▲22.1/▲35.4)
小売	▲54.2	▲48.5	▲45.4	▲35.0	▲37.0	▲35.3	▲33.0 (▲29.3/▲48.8)
サービス	▲50.6	▲39.8	▲37.4	▲42.0	▲39.4	▲36.0	▲32.0 (▲32.1/▲45.1)

※「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しD I  
 ( ) 内左側（網かけ）は前月（7月）の先行き見通しD I  
 ( ) 内右側は昨年8月の先行き見通しD I

### 《採算D I（全産業・前年同月比）の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比) の推移

	10年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9～11月
全産業	▲32.6	▲31.1	▲27.1	▲26.4	▲24.6	▲23.2	▲26.1 (▲25.8/▲32.8)
建設	▲42.7	▲40.6	▲39.4	▲39.1	▲38.8	▲35.9	▲39.0 (▲38.5/▲36.1)
製造	▲27.6	▲26.0	▲23.3	▲22.8	▲19.0	▲16.3	▲24.1 (▲24.8/▲38.9)
卸売	▲25.0	▲25.6	▲21.1	▲19.7	▲14.8	▲13.8	▲13.1 (▲16.3/▲24.3)
小売	▲33.1	▲32.8	▲28.5	▲24.1	▲21.3	▲23.1	▲22.9 (▲21.0/▲29.4)
サービス	▲33.7	▲30.3	▲24.1	▲27.2	▲28.1	▲25.9	▲28.3 (▲27.4/▲31.4)

$$D I = (\text{好転の回答割合}) - (\text{悪化の回答割合})$$

【前年同月比D I】全産業合計の資金繰りD Iは▲23.2となり、マイナス幅は8カ月連続で縮小した。産業別にみても、小売業はマイナス幅が拡大したものの、他の4業種は縮小した。

【先行き見通しD I】全産業合計の先行き見通しをみると、前月と比べ、マイナス幅はほぼ横ばいとなる見通し。産業別にみると、小売業はマイナス幅が拡大する見込みであるものの、卸売業は縮小、他の3業種はほぼ横ばいとなる見通し。

仕入単価D I (前年同月比) の推移

	10年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9～11月
全産業	▲6.8	▲19.4	▲20.9	▲18.3	▲19.7	▲19.1	▲15.9 (▲16.3/▲12.8)
建設	▲11.8	▲26.5	▲31.2	▲32.9	▲27.2	▲26.6	▲22.3 (▲24.1/▲13.3)
製造	▲13.4	▲23.5	▲25.9	▲26.1	▲26.8	▲24.6	▲23.0 (▲22.5/▲13.7)
卸売	3.8	▲11.2	▲17.3	▲10.3	▲14.0	▲14.6	▲6.2 (▲14.7/▲5.6)
小売	2.3	▲9.8	▲10.0	▲6.0	▲9.3	▲10.2	▲9.2 (▲9.6/▲9.9)
サービス	▲11.5	▲24.7	▲22.8	▲18.3	▲21.1	▲19.8	▲15.5 (▲12.9/▲18.0)

$$D I = (\text{下落の回答割合}) - (\text{上昇の回答割合})$$

【前年同月比D I】全産業合計の仕入単価D Iは▲19.1と、前月からほぼ横ばいで推移した。産業別にみると、製造業、サービス業はマイナス幅が縮小、他の3業種はほぼ横ばいで推移した。

【先行き見通しD I】全産業合計の先行き見通しをみると、前月と比べ、上昇感ほぼ横ばいとなる見通し。産業別にみると、サービス業は上昇感が強まる見込みであるものの、製造業、小売業はほぼ横ばい、他の2業種は弱まる見通し。

従業員D I（前年同月比）の推移

	10年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9～11月
全産業	▲14.2	▲14.1	▲12.4	▲11.2	▲11.5	▲10.1	▲8.9 (▲9.9/▲15.7)
建設	▲24.4	▲27.6	▲23.3	▲24.3	▲28.4	▲25.5	▲21.4 (▲24.7/▲24.2)
製造	▲15.8	▲16.7	▲15.5	▲11.5	▲9.1	▲9.9	▲10.2 (▲8.3/▲19.8)
卸売	▲20.9	▲15.0	▲12.8	▲14.7	▲14.8	▲9.3	▲10.9 (▲14.1/▲19.4)
小売	▲9.5	▲9.7	▲9.2	▲5.2	▲5.3	▲5.5	▲4.7 (▲4.8/▲11.0)
サービス	▲8.6	▲7.2	▲5.6	▲8.0	▲8.4	▲5.8	▲3.4 (▲5.8/▲9.7)

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計の従業員D Iは▲10.1となり、マイナス幅は2カ月ぶりに縮小した。産業別にみると、製造業、小売業はほぼ横ばいとなったものの、他の3業種は過剰感が弱まった。

【先行き見通しD I】全産業合計の先行き見通しをみると、前月と比べ、過剰感は弱まる見通し。産業別にみると、製造業は過剰感が強まる見込みであるものの、小売業はほぼ横ばい、他の3業種は弱まる見通し。

※「先行き見通し」は当月に比べた向こう3カ月の先行き見通しD I  
 ( ) 内左側(網かけ)は前月(7月)の先行き見通しD I  
 ( ) 内右側は昨年8月の先行き見通しD I

## 【2010年8月の景気キーワード】

### ○価格競争の激化

公共工事の削減に伴う採算を度外視した受注競争や、小売業などにおける消費者の低価格志向を意識した販売価格の大幅な値下げなど、価格競争の激化による収益の減少を訴える声が多い。

- ・「公共工事、民間工事とも減少しており、低価格での受注競争が激化」（横浜・一般土木建築工事業）
- ・「自動車関連では受注の回復基調が続いているものの、海外企業との見積もりにおける低価格競争が激化しており、経営状況は依然として厳しい」（高崎・自動車・同附属品製造業）
- ・「スーパー間で小売価格の値引き競争が続いており、食品を中心に卸売価格が抑制され、収益状況が厳しい」（静岡・各種商品卸売業）

### ○経済対策の期限切れに対する懸念

エコカー補助金が9月末で期限切れを迎えることから、経済対策の効果によって下支えされていた自動車販売の落ち込みを懸念する声が多く寄せられた。

- ・「自動車部品の受注はハイブリッド車関係で引き続き堅調であるが、エコカー補助金終了後の大幅な受注減を懸念している」（静岡・金属加工機械製造業）
- ・「エコカー補助金の終了によって仕事がなくなることへの不安を感じる」（西尾・鉄素形型製造業）
- ・「10月以降の売上見通しへの不安が強く、業界全体で駆け込み需要の取り込みに躍起になっている」（横浜・自動車卸売業）

### ○急激な円高の悪影響

製造業を中心に、急激な円高によって輸出や生産が減少し、収益に悪影響が及んでいる。

- ・「急激な円高により、輸出向けの受注が大幅に減少し、生産調整を進めざるを得ない状況」（草津・自動車・同附属品製造業）
- ・「中国向けの部品・装置等を多く製造しているため、このまま円高が進むと、業況の悪化につながる恐れがある」（亀田・金属加工機械製造業）
- ・「円高の影響により、欧米向けティーポットの注文キャンセルが発生しており、工芸鋳物の受注が落ち込んでいる」（奥州・鉄素形材製造業）

### 【景気キーワードの推移】

年 月	景気キーワード		
10年3月	デフレの深刻化	依然として厳しい雇用情勢	根強い先行き不安
4月	根強い消費者の低価格志向	依然として厳しい雇用情勢	仕入価格の上昇への懸念
5月	根強い消費者の低価格志向	受注・売上に回復の兆し	仕入価格の上昇・高止まりによる影響
6月	価格競争の激化	受注・売上に持ち直しの動き	仕入価格の上昇・高止まりによる影響
7月	価格競争の激化	経済対策の期限切れに対する懸念	仕入価格の上昇・高止まりによる影響
8月	価格競争の激化	経済対策の期限切れに対する懸念	急激な円高の悪影響

※景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関する自由回答をまとめたもの。本文中の（ ）内は、(地名・業種)を示す。

## 【ブロック別概況】

- ブロック別の業況D I（前年同月比ベース）は、関東、近畿でマイナス幅が拡大したものの、北海道、東海はほぼ横ばい、他の5地域は縮小した。業況が大幅に改善した中国は、製造業における受注の回復が顕著であったこと、九州では、宮崎県で発生した口蹄疫の風評被害等により前月急激にマイナス幅が拡大したことへの反動が影響しているとみられる。
- ブロック別の向こう3カ月（9～11月）の業況の先行き見通しは、前月と比べ、北海道、九州でマイナス幅が縮小したものの、東北でほぼ横ばい、他の6地域では拡大した。

ブロック別・全産業業況D I（前年同月比）の推移

	10年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9～11月
全 国	▲49.3	▲45.7	▲39.7	▲40.5	▲39.7	▲37.7	▲37.2 (▲34.7/▲46.3)
北 海 道	▲38.8	▲44.0	▲38.1	▲45.2	▲37.5	▲38.4	▲27.4 (▲28.8/▲52.3)
東 北	▲48.7	▲44.2	▲39.4	▲30.0	▲34.9	▲31.8	▲37.3 (▲36.7/▲44.5)
北陸信越	▲53.7	▲46.7	▲43.6	▲42.3	▲41.7	▲35.4	▲34.1 (▲27.7/▲46.1)
関 東	▲44.1	▲42.8	▲32.1	▲33.8	▲33.2	▲34.4	▲37.1 (▲33.7/▲43.5)
東 海	▲50.4	▲46.2	▲42.8	▲41.5	▲38.3	▲38.3	▲42.8 (▲32.7/▲42.8)
近 畿	▲60.4	▲48.1	▲41.4	▲41.5	▲36.2	▲42.1	▲31.7 (▲30.1/▲49.5)
中 国	▲50.5	▲53.6	▲49.1	▲50.5	▲48.9	▲35.8	▲45.7 (▲40.0/▲47.5)
四 国	▲36.9	▲41.5	▲33.3	▲41.1	▲41.4	▲40.3	▲38.8 (▲33.3/▲39.8)
九 州	▲59.0	▲48.9	▲49.7	▲51.4	▲58.9	▲46.8	▲41.1 (▲53.9/▲54.3)

※「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しD I  
 ( ) 内左側（網かけ）は前月（7月）の先行き見通しD I  
 ( ) 内右側は昨年8月の先行き見通しD I

【ブロック別・特徴的なコメント】

産 業	概 況
北海道	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住宅エコポイント制度の申請が少し増えているが、戸建ての建築確認件数は前年と変わらず経営状況は依然厳しい（一般土木建築工事業）</li> <li>・子ども手当による好影響は全く実感できない（総合スーパー）</li> <li>・暑さが続き、エアコン・扇風機の需要が広がるも、メーカー側が在庫切れのため、販売する商品がない状態が続いている（商店街）</li> </ul>
東北	<ul style="list-style-type: none"> <li>・円高の影響でスーパーの安売り競争に拍車がかかっており、業況悪化の要因になりかねない（水産食糧品製造業）</li> <li>・中国や東南アジア向け自動車ならびにその他機械部品の輸出が好調であることから、産業機械用鋳物の受注が緩やかに改善（鉄素形材製造業）</li> <li>・急激な円高による株価下落から消費者の節約志向が一層強まることを懸念（百貨店）</li> </ul>
北陸信越	<ul style="list-style-type: none"> <li>・猛暑によりエアコン取り付けの需要が大幅に増加（電気工事業）</li> <li>・自治体や国の出先機関などで見積もりが厳格になっており、ますます低価格受注に拍車がかかっている（印刷業）</li> <li>・高速道路料金の値下げや無料化の効果で観光客は増えているが、宿泊客数の増加につながらない（旅館）</li> </ul>
関東	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工場では、パート従業員が多数を占めることから、最低賃金の大幅な引き上げは企業経営に多大な影響を及ぼす（調味料製造業）</li> <li>・鋼材の仕入価格が上昇しているが、受注も伸びているため、採算は維持できている（建設・鉱山機械製造業）</li> <li>・例年にない猛暑の影響で客足が鈍く、売上が伸び悩んでいる（商店街）</li> </ul>
東海	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共工事の減少に加えて民間の設備投資が控えられており、受注競争が非常に厳しい（一般土木建築工事業）</li> <li>・中小企業にとって、依然として景気回復の実感はなく、厳しい経費節減を続けている（自動車・同附属品製造業）</li> <li>・中国向けの鉄鋼の輸出に陰りが出ていることに伴い、石灰出荷の先行き見通しが厳しい（その他の窯業・土石製品製造業）</li> </ul>
近畿	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共工事だけでなく民間工事でも大手ゼネコンのダンピング受注が発生し、中小建設業者の受注獲得は一層困難（一般土木建築工事業）</li> <li>・原材料の綿価格が高騰しているが、販売価格への転嫁が進んでおらず採算の悪化を懸念（その他の繊維製品製造業）</li> <li>・猛暑によりエアコンの販売台数は前年を大きく上回ったが、販売単価が下落しており収益確保は厳しい（機械器具小売業）</li> </ul>
中国	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共工事において大型の耐震工事の発注が続いており、受注の増加につながっている（建築工事業）</li> <li>・猛暑により飲食関係の売上が伸びている（農畜産・水産物卸売業）</li> <li>・ホテル間の競争が激化し、宿泊料金下落傾向が続いている（旅館）</li> </ul>
四国	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共工事の減少に起因する過当競争は激化の一途であり、無理な安値受注を続けることによる経営破綻を危惧している（一般土木建築工事業）</li> <li>・夏物の生産が終了し、秋物の生産に入っているが、残暑が続く見通しのため、秋冬物の売上に不安を感じている（織物製・外衣製造業）</li> <li>・企業が設備投資に慎重になっており、受注が一層難しくなっている（一般産業用機械・装置製造業）</li> </ul>
九州	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地方では企業が設備投資を抑える傾向が顕著であるため、海外に販路を拡大する必要性を感じる（建設・建築用金属製品製造業）</li> <li>・半導体の生産が堅調（金属加工機械製造業）</li> <li>・飲食業界では値引き競争が激しく、一流ホテルでも安い宴会コースを打ち出している状況（食堂、レストラン）</li> </ul>